

第1回マニフェスト大賞（地方議会）授賞式講評：工藤泰裕(言論NPO代表)

率直に言ってほっとしています、ほっとしていると言う事は、僕達は、マニフェスト評価をしており、日本一厳しい評価をしている団体です。今回僕達が一番最高点を付けたのが二つあり、その一つが福島町議会です。ここがもし残らなかったらどうしようと思っていました。どうしてかと言うと、こうゆう自治体があつて良かったなあと思ったんです。

地方は住民が主体で、議会は委託を受けその代理としてサービスを実現したり、それからチェックをしたりしている。最近地方自治体は、はたしてそのようになっているのでしょうか、ほとんど不祥事があつて、そのチェック機能がなされていない。そんな状況の中でこうゆう議会があつて非常に良かったなあと思っております。

私達は評価をしておりますが、評価にはたくさんの体型や基準があり、まさに白紙であり、それがうまくないとまったく評価にならない、その基準もたくさんありますが、それを福島町議会に当てはめてチェックしてもかなり本物でちゃんと評価できるものになっている。

ここまで評価をしている事は、全て裸にさらしていると言う事で、私達はここまでやっていますと、住民の人に常に見せている、それを住民がどう受け止めるか、まさに住民自身が問われている。

福島町がやっている事は、まさに問題提起として非常に重い、マニフェスト大賞グランプリに値するものだと思います。

おめでとうございます。